

平成28年度 十勝農試 定期作況報告 大豆

月	作況	事由
6月20日	平年並	播種期は平年より1日早い5月19日であった。播種後、好天に恵まれたため出芽は良好で、出芽期は平年より5日早かった。しかし、出芽後は気温の低い日が多く、主茎長・主茎節数は平年並である。 以上のことから、現在の作況は平年並である。
7月20日	やや不良	6月下旬以降、低温傾向が続き、生育は停滞した。開花始は平年より5日遅い7月18日となった。主茎節数が平年並、分枝数は平年よりやや多いが、主茎長は平年を下回った。 以上のことから、現在の作況はやや不良である。
8月20日	やや不良	8月上旬からの好天により生育は回復し、主茎長は平年並、主茎節数および分枝数は平年を上回った。着莢数は平年比97%であった。8月17日の台風により中～多程度の倒伏が発生しており、登熟への影響が懸念される。 以上のことから、現在の作況はやや不良である。
9月20日	やや不良	8月下旬から9月上旬にかけて高温傾向となり、主茎長、主茎節数および分枝数は平年を上回ったが、着莢数は平年比96%であった。8月下旬以降の台風により倒伏程度は“多”となり、成熟期は平年より遅れることが見込まれる。 以上のことから、現在の作況はやや不良である。
10月20日	不良	成熟期は平年より7日遅かった。主茎長、主茎節数および分枝数は平年を上回った。百粒重は平年並だったが、着莢数は平年より少なく、一莢内粒数は平年よりかなり少なかった。このため、子実重は平年対比77%と大きく下回った。 以上のことから、現在の作況は不良である。
11月20日	不良	播種期は平年より1日早かった。播種後は好天に恵まれたため出芽は良好で、出芽期は平年より5日早かった。しかし、出芽以降は低温傾向となったため生育は停滞し、開花始は平年より5日遅かった。8月上旬からは高温となったため生育は回復し、着莢数は平年よりやや少なかったが、主茎長は平年並～高く、主茎節数および分枝数は平年を上回って経過した。8月中旬以降に台風被害を複数回受けたため倒伏が多発し、成熟期は平年より7日遅かった。成熟期の着莢数は平年より少なく、百粒重は平年並だったが、一莢内粒数は平年よりかなり少なかった。このため、子実重は平年対比77%と大きく下回った。品質は“3上”で平年を下回った。 以上のことから、本年の作況は不良である。

生育データ

品種名	ユキホマレ			
	本年	平年	比較	
項目/年次				
播種期(月日)	5.19	5.20	△1	
出芽期(月日)	5.28	6.2	△5	
出芽率(%)	94.9	91.9	3.0	
開花始(月日)	7.18	7.13	5	
成熟期(月日)	9.29	9.22	7	
主茎長 (cm)	6月20日	12.7	12.2	0.5
	7月20日	53.3	64.2	△10.9
	8月20日	76.8	74.8	2.0
	9月20日	78.4	74.2	4.2
	成熟期	77.1	73.9	3.2
主茎節数 (節)	6月20日	3.3	3.2	0.1
	7月20日	10.3	10.6	△0.3
	8月20日	11.5	10.9	0.6
	9月20日	11.9	10.8	1.1
	成熟期	11.6	10.8	0.8
分枝数 (本/株)	7月20日	5.2	4.5	0.7
	8月20日	5.4	4.9	0.6
	9月20日	5.6	4.6	1.0
	成熟期	5.0	4.3	0.7
着莢数 (莢/株)	8月20日	74.2	76.8	△2.6
	9月20日	65.7	68.3	△2.6
	成熟期	63.0	67.2	△4.2
一莢内粒数(粒)	1.64	1.80	△0.16	
子実重(kg/10a) ³⁾	291	379	△88	
百粒重(g) ³⁾	39.1	39.4	△0.3	
屑粒率(%)	2.8	1.8	1.0	
品質(検査等級) ⁴⁾	3上	2下	—	
子実重対平年比(%)	77	100	△23	

備考1) 平年値は、前7か年中、平成26年(豊作年)及び21年(凶作年)を除く5か年平均である。

2) △は、平年と比較して「早」、「少」、「短」、「軽」、「低」を表す。

3) 水分含量15%に換算した値。

4) 農産物検査による等級。2等・3等は上・中・下に分けた。

耕種概要

一区面積 (m ²)	区制	前作物	畦幅 (cm)	株間 (cm)	1株本数	株数 (株/10a)	播種日 (月日)	種子処理
16.8	3	緑肥えん麦	60	20	2	8,333	5.19	クルーザーMAXX
施肥量 (kg/10a)								
N	P ₂ O ₅	K ₂ O	MgO	堆肥	その他			
1.8	15.0	7.8	3.0	なし	なし			